

あなたの赤ちゃんは 聴覚スクリーニング 再検査または診断評価に 合格しました



この書類を、赤ちゃんの次回の医療提供者またはクリニックの受診時にお持ちください。

赤ちゃんの名前 _____
赤ちゃんの生年月日 _____
新生児聴覚スクリーニング
再検査または診断評価の日付 _____
オーディオロジストの名前 _____
オーディオロジストの電話番号 _____

使用した検査方法： 耳音響放射 (Otoacoustic Emissions、OAE)
 聴性脳幹反応 (Auditory Brainstem Responses、ABR)

右耳スクリーニング

- 合格
 不合格
 スクリーニング検査を受けていない

左耳スクリーニング

- 合格
 不合格
 スクリーニング検査を受けていない

新生児は、聴覚検査に合格しても聴覚障害を持つ可能性がありますか？

はい。聴力はいつどんなときも変化する場合があります。赤ちゃんが現在または将来に以下のいずれかに当てはまる場合、赤ちゃんの医療提供者に相談するか、保健所に連絡してください。

- 赤ちゃんの実の両親のどちらか、またはいずれかの近親者は子どもの頃に聴覚障害または難聴があった。
- 赤ちゃんは病院の「NICU」または「PICU」－新生児集中治療 (neonatal intensive care unit) または小児集中治療室 (pediatric intensive care unit) に入っていた
- 赤ちゃんは交換輸血 (特殊なタイプの輸血) を受けた。
- 赤ちゃんは耳の感染症を何度も患っている。
- 赤ちゃんは頭部に怪我をしている、または怪我をしたことがある。
- 赤ちゃんはあまり聞こえていないようだ。
- 赤ちゃんはあまり話せていないようだ。
- 赤ちゃんの行動は、この紙の裏面にある聴力チェックリストと異なっている。

聴力チェックリスト

聴覚障害や難聴でない場合、赤ちゃんは一般的に次のことができます。

出生～3か月

- 音に驚く
- 親や介護者の声で落ち着く
- あなたの声がある方に頭を向ける

3～6か月

- あなたの声を探すために目と頭を動かす
- パーパーなど色々な喃語を話す
- 音を出すおもちゃを楽しむ

6～9か月

- 自分の名前を聞くと反応する
- 「ダメ」や「バイバイ」などの簡単な言葉を理解する
- 「ダダ、パパ」や「ママ」と言う

9～12か月

- 簡単な単語や音を復唱する
- 「ママ」や「ダダ（パパ）」以外の単語を2～3つ使う
- 求められたらおもちゃを渡す
- 意思疎通を助けるために指さしをする

12～18か月

- 喃語以外に7つ以上の本当の言葉を使う
- 単純な言葉での指示に従う
- いくつかのものを名前ですずねる



詳細は右記をご覧ください：health.ny.gov/EHDI



Department
of Health